

# 北東アジアの変化と新しい日ロ関係

～北海道と極東ロシアとの交流を考える～

公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター(HIECC)

上席研究員・高田 喜博



## ■ 二つの世界潮流

日本および北海道を取りまく国際環境を考える場合、まず、「グローバルイズム(Globalism)」と「リージョナリズム(Regionalism)」という二つの世界潮流から考えるべきである。

1991年のソ連崩壊後、米国主導の自由貿易および市場主義経済が拡大し、いわゆる「グローバルイズム」が世界経済に大きく影響を与えてきた。これを正確に定義することは困難であるが、一般には「人、モノ、金(資金)、情報、技術が国境を越えて世界を飛び回る状態」と説明されている。

他方、EU統合、ASEANの拡大、東アジア共同体構想、さらにはFTAやTPPなどの地域経済連携に代表される「リージョナリズム」ないし「地域主義」という動きもある。

こうした、世界経済を支配する二つの世界潮流の中で、これまで国内問題、地域問題だった事柄が国際問題化し、日本をとりまく周辺各国、北海道を取りまく周辺地域との関係は、今後、ますます重要となるだろう。

## ■ 日本の貿易構造の変化

日本の貿易総額に占める割合は、1990年に米国27.4%、アジア30.0%、中国3.5%だったのに対して、2011年は米国11.9%、アジア50.2%、中国20.6%となり、日本の貿易構造は、北米から中国を中心とするアジアへ大きくシフトしてきた。

また、原発事故後の代替エネルギーの輸入増加もあり、2012年の貿易収支は過去最大6.9兆円の赤字となった。そうした中、輸出超過の国(日本を儲けさせてくれる国)は、米国4.1兆円、香港3.3兆円、台湾2.2兆円、韓国2.1兆円、シンガポール1.5兆円、タイ1.0兆円となっており、ここでも、対アジア貿易の重要性を指摘することができる。

## ■ 日本の安全保障問題の変化

現在、地球規模の環境問題、深刻な食料不足や資源・エネルギーの不足など、国家の存立や国民の安全に対する新たな脅威が生まれ、それぞれ、環境安全保障、食料安全保障、資源・エネルギー安全保障などの「新しい安全保障問題」として議論されている。そうした、新しい安全保障問題に関しては、環境問題でも明らかかなように、関係各国、とくに中国、韓国、ロシアなどとの多国間での連携や協力が重要となっている。

## ■ ロシアのアジア重視政策

北海道にとっては、隣接するロシアの動きも重要である。再登場したプーチン大統領は、これまでもアジア重視の発言を繰り返してきた。その背景には、ロシアの石油・天然ガス生産の中心が、西シベリアから東シベリア、さらに極東へとシフトしており、また、石油・天然ガスの市場も需要が伸び悩む欧州から経済成長を続ける東アジアにシフトしているという事情がある。そのため、ロシアは、ウラジオストクでのAPEC首脳会議をテコとして、極東ロシアとアジア・太平洋地域との経済統合を目指し、日本との経済協力を大いに期待している。

## ■ 北東アジアのポテンシャル

以上のような世界潮流、日本の貿易構造、ロシアの変化を受けて、われわれは隣接する「北東アジア」の可能性に着目すべきである。「北東アジア」とは、一般に日本、中国、韓国と考えられているが、現在の経済依存関係と今後の政治経済の変化を考えると、(極東)ロシア、台湾、香港、北朝鮮、モンゴルを含めて考えることができる。この北東アジアと他の経済圏を比較してみよう。

次頁の表のとおり、GDPの対世界比率ではNAFTA(北米自由貿易協定)26.1%、北東アジア25.3%、EU(27カ国)23.1%であるが、人口では北東アジア24.6%が突出しており、今後の成長が期待できる地域である。また、貿易額では北東アジア8兆9千ドルで、既にNAFTA5兆7千億ドル、EU4兆6千億ドルを大きく上回っている。これが、日本に隣接する「北東アジア」のポテンシャルである。

## ■ 動き出した古くて新しい二つのテーマ

1991年に国連開発計画(UNDP)により、中国、ロシア、北朝鮮の国境地域で「図們江地域開発計画」が発表されたが、日本を含む関係各国の協力が得られず頓挫した。しかし、中国の東北三省の経済発展により、中国主導で開発計画が復活しようとしている。短期的には、朝鮮半島情勢が不安定要素となるだろうが、中長期的には、この地域が新たなアジアの経済成長センターとなる可能性がある。

また、ソ連時代に、原子力砕氷船が建造され、「北極海航路」開設の機運が高まった。しかし、ソ連崩壊後、この計画は長らく放置されてきた。近年、地球温暖化の影響で北極海の海水が減少し、北極海航路が現実化している。例えば、横浜港から欧州まで北極海航路を利用すると、距離が約6割となるだけでなく、海賊や戦争の危険のある海域を回避することができる。

## ■ 北東アジアの中で北海道の未来を考える

極東ロシアを含む北東アジアは、大きな可能性を有し、また、激しく変化している。しかし、政治も経済も停滞する日本、とくに北海道の中にいると、そうした可能性や変化は見えないようだ。目先の利益にとらわれた足下の議論が多い。

確かに、グローバルイズムやリージョナリズム(地域主義)は大きな試練であり、慎重に対応しなければならない。しかし、それを完全に回避できないのであれば、われわれは、北海道の地域資源を最大限に活用して果敢にチャレンジしなければならない。「図們江地域開発計画」や「北極海航路」などに的確に対応して、新しいチャンス北海道に取り込む中長期の戦略が必要である。

## ■ これまでの交流とこれからの交流

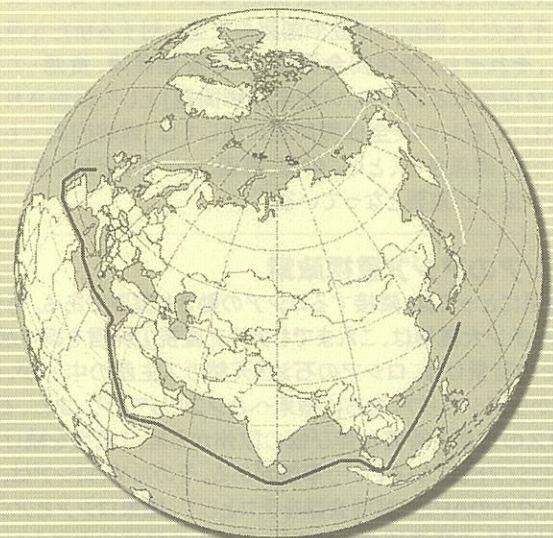
北海道と極東ロシア、とくにサハリンとは、長年にわたり多層的で広がりのある交流を続けてきた。それによって、経済交流拡大のために必要な信頼関係を醸成し、ネットワークを構築し、交流の担い手を育成してきた。こうした交流の成果も含め、北海道の地域資源や優位性のある技術を最大限に活用するための中長期の戦略が必要である。これからの交流は、そうした北海道の戦略の中核に位置づけられなければならない。

	人口(万人)		GDP(10億ドル)		輸入総額(億ドル)	輸出総額(億ドル)	貿易総額(億ドル)
北東アジア(7カ国)	170,690	24.6%	18,116	25.3%	42,765	46,318	89,083
日本	12,761		5,964		8,569	7,929	16,498
中国	135,404		8,227		17,800	20,210	38,010
台湾	2,332		474		2,616	2,882	5,498
香港	717		263		4,994	4,390	9,384
韓国	5,001		1,156		5,205	5,482	10,687
ロシア	14,192		2,022		3,581	5,425	9,006
モンゴル	283		10		—	—	—
NAFTA	46,388	6.7%	18,681	26.1%	32,173	24,711	56,884
アメリカ	31,418		15,685		23,570	16,120	39,690
カナダ	3,483		1,819		4,809	4,817	9,626
メキシコ	11,487		1,177		3,794	3,774	7,568
EU(27カ国)	50,256	7.2%	16,584	23.1%	23,970	21,700	45,670
ASEAN(10カ国)	61,560	8.9%	2,306	3.2%	—	—	—
世界(187カ国)	694,068	100.0%	71,703	100.0%	—	—	—

人口とGDPについては、世界のランキング[<http://ecodb.net/>]の人口ランキングと名目GDP(USドル)ランキングの数字から作成した。  
貿易額については、世界ランキング統計局[<http://10rank.blog.fc2.com/blog-category-35.html>]の数字から作成した。



「図們江地域開発計画」の位置(高田作成)



出典：ウィキペディア「北極海航路」